

YWVOB会 会報 No.25

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

2003年12月13日発行

～ 25号の目次 ～

・日本横断ワンダリング.....	1	・2004年度総会報告.....	6
・第8回OB山行の報告(乾徳山).....	3	・会員近況(返信ハガキより).....	13
・第9回OB山行のお知らせ(三ツ峠山).....	4	・お知らせなど.....	17
・苗名小屋屋根張替プロジェクト 募金御礼 及び 報告.....	5		

■ 日本横断ワンダリング

塩野 貴之(46期)

2003年の夏休み、横浜大棧橋を出発して国大の部室、なえな小屋を通り糸魚川で日本海に達するという次ページに記したとおりの行程で長いワンダリングを行なった。このワンダリングに関しては思い入れがあり、やや強引な形であったが、「なえな小屋へ、そして日本海へ」という目標に向かう情熱を胸に、計画通り遂行することができた。最後のピークである雨飾山から、軽井沢より同行した井上さんと二人、日本海の白波を遠望した時はこれまで感じたことのない大きな充実感と満足感に浸り、そして糸魚川のメノウ海岸で日本海に飛び込んだ時には、これで一年かけて計画を立て実行したワンダリングが終わってしまうという寂しさが去来した。このワンダリング記録は紀行文の形でまとめているが、ここでは簡単にその経過とワンダリングを通して感じたことを記してみたい。

日本海まで歩こうと思いついた契機はごく単純で、普段は列車か車で行くなえな小屋まで一回くらいは歩いて行こうと思いついたのが始めて、どうせなら山を通って行こう、妙高高原まで行くなら日本海をゴールにして日本横断という形にしよう、と計画が膨らんでいったのである。ごく軽い動機であり、ある程度、山歩きに関する知識と時間とやる気さえあれば誰でも実行可能なワンダリングで、おそれたことを成し遂げたという実感はない。軽井沢までは独りということもあり、整備された道のある山のみを通り、里歩きも多分に含みながらの徒歩旅行という感覚であった。

さて、夕暮れの横浜大棧橋を旅立った僕は、排ガスにまみれの道を一日で40⁺。北上し津久井湖から山道に入った。三頭山へ至る低山では暑さとザックの重さに滅入りながらも鳥の声に励

日にち	行程	歩行時間	山の数
8/29	横浜大棧橋-国大別室	1:40	0
8/30	国大別室-16号線-津久井湖展望台	6:35	0
8/31	津久井湖展望台-葦の露宿-大森水峠-雨飾山-明王峠-藤島山-和田峠	7:30	5
9/1	和田峠-生駒山-三ツ峠-浅間峠-日原峠-丸山-熊野山-三頭山避難小屋	7:26	8
9/2	三頭山避難小屋-三ツ峠-奥多摩湖-三島の湯入口-三島の湯	6:56	1
9/3	三島の湯-北天のタム-蔵敷山-得志小屋テント場	5:31	1
9/4	得志小屋-笠取山-都立-水島山-善後峠-蔵敷山-笹平避難小屋	7:56	7
9/5	笹平避難小屋-甲斐窪谷-千曲川源流-梓山-川上村牧場前(買出し)	7:05	1
9/6	川上村牧場-西峰峠-天狗山-立原高原キャンプ場	4:08	1
9/7	立原高原-立岩峠-南松木村-御座山避難小屋	4:23	1
9/8	御座山-北相木村-小海町-佐久町総合運動場野宿	8:13	0
9/9	佐久町-大上峠-南牧村キャンプ場	4:55	0
9/10	南牧村キャンプ場-羽根沢尾沢小-星尾-蔵敷山-トモ岩-内山牧場キャンプ場	6:58	1
9/11	内山牧場-熊見野-熊見山-八尾山-八尾山入口-軽井沢駅-矢ヶ崎公園野宿	4:30	3
9/12	軽井沢駅-軽井沢散策-中軽井沢長倉公園(買出し)	2:30	0
9/13	中軽井沢-湯分宿-青年の家-浅間山荘キャンプ場	6:50	0
9/14	浅間山荘キャンプ場-藤ノ平-黒鹿山-トモ岩-車坂峠-木の塔山-葦の塔山-池の平-湯の丸峠キャンプ場	8:31	4
9/15	湯の丸峠-葦の丸山-角間峠-角間山-藤野村-鳥居峠	8:14	2
9/16	鳥居峠-西阿久保-熊子峠-菅平牧場-日本ダボス	7:53	2
9/17	日本ダボス-菅平温泉-大室温泉-長野市内若里ホテル(買出し)	6:32	0
9/18	若里ホテル-菅平寺-飯綱高原キャンプ場	4:25	0
9/19	飯綱高原-飯綱山-戸隠神社-戸隠高原キャンプ場	6:18	1
9/20	戸隠高原-黒姫山登山口-大タムミ-乙見湖-なえな小屋	8:08	0
9/21	なえな小屋	-	-
9/22	なえな小屋-笹ヶ峰-乙見山峠-小谷温泉-野鳥高原キャンプ場	6:53	0
9/23	野鳥高原-荒菅沢-蔵敷山-楓山新築テント場	5:28	1
9/24	楓山新築-根知-糸魚川駅-糸魚川メノウ海岸	6:41	0
計27日間	全歩行時間157時間7分 登頂した山の数39山 備考・-は車道・は登山道		

日本横断ワンダリング全行程

まされ歩き通した。食糧は川上村までの分を持ち、総重量は 25kg 弱。長い行程を考え軽量化に励んだが、それは成功の大きな要因になった。加藤文太郎を見習い、甘納豆と煮干そして黒砂糖をポケットに入れて歩きながら口にした。

深い森の奥秩父主脈。三条の湯から雁坂峠まではツキノワクマやニホンジカに会いこそすれ、人間には誰にも会わず、山の偉大さを心の底から味わった。将監峠の夜、僕は本当の意味での孤独を噛み締めていた。自分から最も近くにいる人間は何キロ位先だろうか、テントから顔を出せば火星が明るく輝いていた。「天の原ふりさけ見れば」の境地であろうか。

佐久の盟主、御座山。山頂の避難小屋で独りの長い夜を明かし、夜明けの時が来た。流れる霧の合間から深紅の玉が顔を出し、流れ行く霧を紅の色に染め、八ヶ岳が燃えた。たった一人でこの心震える景観を独占しているのが惜しくなるほどだった。御座山よ、御座山。深い原生林と俗化していない山道、その立派な山容。徐々に遠ざかる思い出の山を何度も何度も名残惜しく振り返りながら、僕は先を目指した。

峠を越えると国が変わり、景観が変わる。今回の旅で何度、味わいある峠を越えたことだろう。佐久町から大上峠を越え西上州の南牧村へ入ると、それまでの田園風景が突如、荒々しい岩山と鋭く切れ込んだ溪谷沿いの集落に変わった。南牧村尾沢小の旧校舎。在校生が 500 名を越えた林業盛んな時代は今いずこ。廃校になった木造校舎に、時の刻みを止めた時計が悲しい。旅の中で何度も「もののあはれ」を感じ、僕の心は揺さぶられた。

軽井沢より先は井上さんと二人、珍妙奇天烈な会話をしながら、最高の天気の下、浅間、籠ノ塔、湯の丸と明るい山を越える。三連休ということもあり何度も同じことを答えなければならなかった。大きすぎる荷物、日本海への行程……。多くの出会い、それが旅。山に出会いに、人に出会いに僕は山に登る。

山の樹木と高山植物の図鑑を持ち、毎日同定しながら歩いた。特に浅間山から四阿山にかけては秋の花が多く、目を楽しませてくれた。

菅平から長野、飯綱高原は長いアスファルト道。突然の大都会、また山村風景と続く。そして飯綱山、黒姫山を越えて小屋に至り、ゆっくり休養し、歌を口ずさみつつ最後の雨飾へと向かったのであった。

ツキノワクマとの遭遇やテントポールの破損、登山道の消滅等ハプニングもあったが、井上さんの多大な協力もあり無事歩きとおせたことに感謝したい。また留守本を買って出してくれ、一日一回携帯から送信した僕のメールを部員全員に配信してくれた志賀先輩を始め、部員の皆にも感謝したい。今後も魅力にあふれ風情あふれ、博物学的興味にあふれる P.W. をしていきたいと思っている。



9/14(日) 黒斑山より浅間山を背後に



9/24(水)日本海ゴールし飛び込んだ僕と井上さん

■ 第8回OB山行(乾徳山)報告

第8回OB山行幹事 小浜一好(17期)

〔日程〕 2003年9月6日(土)

〔参加者〕 宮崎[2]、吉野[2]、腰塚[3]、谷上[4]、山本(陽)[10]、安藤[11]、上野[14]、上野ご主人、小口[14]、狩野[14]、中島[15]、小浜[17]、白須[17]、渡辺[17]、笹倉[30]、藤井[33]、横井[33]、松尾(33期友人)、小野[34]、田村[34]

(計20名・敬称略・[]内数字は期)

第8回を迎えたOB山行が9月6日(土)天候に恵まれ、奥秩父乾徳山(標高2,031m)で、これまで最大の20名が参加して行われました。

朝9時、JR中央本線塩山駅集合しましたが、若手4人組は遅刻(寝坊?)で定刻までに集まった人たちは一足先に自家用車に分乗して大平牧場へ。出発前に恒例の自己紹介。

今回の参加者では10期山本さん、33期横井さん、ゲスト松尾さんが初参加、久しぶりの参加の30期笹倉さんと33期藤井さん、おなじみの34期田村さん、と若手の参加が増えました。ただし20期台の参加はなし。ちなみに2期吉野さん、11期安藤さん、34期小野さんは皆勤賞-8回連続参加。殊に安藤さんは今回所用があり、早く帰らなければならない状況の中で敢えて参加。皆勤を続けるのは努力が必要です。

登山道は所々眺望に恵まれましたが、かなり急な登りを約1時間半、樹林帯を抜けて広々とした扇平で早めの昼食、若手4人組もそこで無事合流しました。

乾徳はやや歩きづらい石の山の印象で、くさり場も3箇所ありました。特に頂上付近は20m以上の直登、手前では順番待ちで渋滞し、20分近くは待ったのではないのでしょうか。

最初から最後まで富士山の眺望に恵まれましたが、高度を稼ぐほど富士山が高く見えました。

扇平から頂上までは約1時間。頂上では大菩薩連峰、眼前に黒金、その向こうに甲武信、破風、雁坂峠など奥秩父の山々-そういえば新人錬成二次合宿当時主将だった今回参加の15期中島さんにはしごかれたなアと思い出す。今はタメ口聞いているけど、昔は近寄れない恐い存在でした。

それにしてもシニアOBの2期吉野さん、宮崎さん、3期腰塚さん、4期谷上さんはお元気です。僕ら10期台より体力があるのは間違いがない。急峻な登りにもこやかに談笑しながら平気な顔。いつも通り、出発時と頂上などでは名カメラマン4期谷上さん恒例の絶妙な間を取った記念撮影がありました。

下山時には2期宮崎さんと14期小口さんは産業廃棄物処分地についてそれぞれ住民側行政側に立った情報交換。14期上野さんは仲良く御夫婦で参加。(長年連れ添った夫婦は顔まで似てくるようです。)

何よりプロデューサー兼会計係2期吉野さんとOB山行委員長の34期小野さんの熱意と労苦には感謝感謝です。何せ、今回のために3日前に全く同じコースをお二人で偵察されたとか。また、帰りの温泉も見つろっていただきました。近くの牧丘町が経営する『花かげの湯』は入場料3時間500円、休憩室利用料込み、硫黄の臭いがかにも温泉らしい露天風呂もあり、超おすすめ。みんなで風呂上がりの生ビールやソフトクリーム、そばを楽しみ、再会を約束して散会となりました。

帰り、僕ら17期白須、渡邊、小浜の3名(期別では今回最多参加)は16号が渋滞したお陰で十分会話を楽しむことができました。

次回の第9回は14期狩野さんが幹事。狩野さんらしいユニークな山行が期待されます。個人的には帰りに是非、温泉で一流汗行程を希望します。皆様、奮って御参加下さい。

僕自身、5回目からの参加で最初は多少の決心が必要でした。(普段の運動不足と面倒くささの克服)でも、参加してわかったこと-①やはり都会暮らしの元ワンダーフォーゲル部だった人間にはたまに自然に抱かれることが必要である、ということ、②山の仲間はいくつになってもあの時と同じ仲間であること、③世代間を超えたYWVの交流は面白いこと、など。日頃の生活にくたびれ果てている(?)特に20期台の若手OB諸君へ、今、流行の癒しになることを請け合う。



頂上直下の鎖場にて

■ 第9回OB山行のお知らせ(三ツ峠山)

OB 山行委員長 小野恵美子(34 期)

9 回目の OB 山行は、年明けに三ツ峠山登山を予定しています。間近の富士山と 360 度の大展望が楽しめます。2004 年の歩き初めとして、楽しい山歩きをご一緒しませんか。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

- [日程] 2004 年 1 月 17 日(土)
[行先] 三ツ峠山(標高 1785. 2m・日本 200 名山)
[地図] 昭文社山と高原地図「31 富士山 御坂・愛鷹」
[集合] 河口湖ロープウェイ下 県営駐車場 9:00
(富士急行河口湖駅より約 1km)

※マイカーでお越しいただける方はお申込みの際その旨ご連絡ください。

※電車でお越しのほうは、駅でマイカーのほうに乗せていただけるよう追って連絡をとります。

- [交通] 八王子駅 6:55～～中央本線各停～～大月駅 7:40
大月駅 7:51～～富士急行～～河口湖駅 8:40
[行程] 河口湖県営駐車場== (タクシー分乗) == 三ツ峠登山口ー三ツ峠山(開運山)
一木無山ー霜山ー天上山ー河口湖県営駐車場 [歩程約 4 時間 20 分]
[参加費] 500 円(写真代等)
[持ち物] 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、軽アイゼン(山道凍結の恐れがあるのでお持ちください)、その他登山に必要な物
[温泉] 開運の湯、野天風呂天水(各 1,000 円)等あり。下山後ご希望の方はご用意を。
[申込み] 参加ご希望の方は 1 月 7 日頃までに下記のいずれかにご連絡ください。

小野恵美子(34 期) 電話 042-335-7251

メール emiko150@nifty.com

狩野一子 (14 期・第 9 回 OB 山行幹事)

メール kanou-1@mti.biglobe.ne.jp



コース概念図

■ 苗名小屋屋根張替プロジェクト 募金御礼 及び 報告

OB 小屋委員長 後藤誠史(39 期)

(文責 伊藤明広(31 期))

1. 募金御礼

この度は、「苗名小屋屋根張替え」の為の特別寄付に多数のご協力を頂きまして、誠にありがとうございました。お蔭様で160名以上の方々から200万円を越える多額の寄付をお寄せいただきました。皆様方の御芳志に心より感謝申し上げます。

また、お寄せいただいた寄付総額は屋根張替発注金額を大きく上回っております。この分につきましては、今後の苗名小屋保守、修繕の費用に充てさせていただきたいと存じますので併せてご了承願います。

2. プロジェクト報告

2003 年度 OB 総会にて、苗名小屋屋根張替えの必要性(建設以来 30 年間全面張替え無し、雨漏りが発生する箇所有り放置することは好ましくない)につき付議し、『苗名小屋屋根張替え事業実施に関しては特別寄付募集を含め、役員会及びOB 小屋委員会に一任する』ことの承認を受けました。

その後、OB 小屋委員会にて、鈴木 OB 小屋現地委員(14 期)を中心に、事前調査や工事仕様の詰め、参考見積の取得等を行い、2003 年 6 月 1 日の役員会に報告。価格交渉を含めた最終業者選定作業に執りかかる事を付議し、承認を得ました。

折衝担当の伊藤 OB 小屋副委員長(31 期)を中心に、7 月に相見積りや見積前提に関するヒアリングを行い、段階的に業者を絞り込み、最終的に以下の通り発注することと致しました(詳細は OB 会報 24 号報告済)。

- ・発注業者 : 中電産業株式会社
- ・発注金額 : 1,400,000 円(消費税込み)

8 月上旬に発注完了、帰省客で笹ヶ峰が混雑する時期を避け、9 月より着工いたしました。しかしながら、今年の冷夏・長雨の影響で、林道から小屋までの数百メートルの坂道がぬかるみ、トラックのタイヤも深くえぐれた轍にはまり工事用資機材の搬入が困難となる、当初想定していなかった事態が起きました。これについては、ショベルカーの投入や砕石敷設等を行い、対処しました。この措置に対しては追加工事費用としての請求(380,100 円)を中電産業より請けましたが、交渉の結果、役員会の了承も得て最終的に 149,100 円で決着。工事は 10 月 11 日に無事完成いたしました。

11 月 8 日の OB 総会にて最終経過報告をし、翌日に屋根の新しくなった苗名小屋の見学会を行いました。現在、発注の際の条件であった瑕疵担保期間 10 年の保証書の中電産業側で作成中であり、これの受領・確認をもって代金の支払を行う予定としております。

今回のプロジェクトにおける最終的な収支は以下の通りです。

収入

- ・寄付総額..... 2,055,000 円
(寄付いただいた人数 164 名)

支出

- ・屋根葺替工事費用 1,400,000 円
- ・道路補修工事費用 149,100 円
- 支出合計 1,549,100 円

収支 505,900 円

なお、残額については今後の苗名小屋保守、修繕の費用に充当させていただくことで、今年度 OB 総会での承認を頂きました。



屋根の葺き替えも完了し、以前より継続してきている DIY 活動の成果も併せ、これまで以上に利用のしやすい小屋になってきております。これを機に、OB 各位におかれましても益々小屋を活用していただければ幸いです。

最後になりますが、当プロジェクト実行に際し五八木荘の岡田様をはじめご協力いただいた方々、また、平行して DIY や R2003 にご協力いただいた多くの方々に対し、深謝申し上げます。

2003 年小屋屋根葺き替え特別寄付明細

期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名
1	嘉納 秀明	5	諸角 純子	8	小出 徹	17	石川 幸嗣	29	禪 知明
1	佐藤 文雄	5	三宅 雅也	8	佐木 誠夫	17	木村 善行	29	松本 和之
1	吉田 輝義	5	金子 洋吾	8	高橋 弓子	17	葛窪 真紀子	30	笹倉 実
1	桑原 忠雄	5	高須 梓	8	池原 盛彦	18	勝山 謙太郎	30	荒木 伸一
1	田上 栄一	5	矢島 拓自	8	早坂 宗	18	堀内 章子	30	安本 健一
1	藤岡 暉生	5	中村 義勝	8	早坂 富美子	18	向井 良作	30	北林 一俊
1	望月 元雄	5	中村 栄子	8	上嶋 雄助	18	植草 慶一	30	山田 幸治
2	吉野大次郎	5	羽島 継男	9	日渡 松男	18	山口 貢三	30	竹澤 智
2	宮本 高子	5	向井 久弥	9	近藤 元恵	19	磯尾 典男	30	藤森 朝詩
2	宮崎 紘	5	亀井 良英	9	三浦 煌太郎	19	林 厚子	30	土生 達也
2	渡辺 一良	5	亀井 昭子	9	鈴木 弥栄男	19	中島 輝夫	31	伊藤 明広
2	塚原 伸一郎	6	松本 君子	10	山本 紀子	19	笹木 久栄	31	岡野 正彦
2	北見 美智子	6	蜜島 英二	10	下村 蓉子	19	小松 真弓	31	松田 哲治
2	多田 裕子	6	久野 秀晴	11	丹羽 守裕	20	西田 雅典	31	松尾 真治
2	岩上 克尚	6	近藤 博昭	11	安藤 貞利	20	武藤 功二	32	藤森 潤子
2	米屋 勝利	6	菅谷 光雄	11	桜井 謙一	20	作山 栄一	33	木村 堅一
3	平林 茂	6	永井 紀子	11	神原 福司	21	横溝 真司	33	藤井 謙一郎
3	森井 栄子	7	菅谷 美智子	11	大森 常明	21	竈橋 泰憲	33	福島 弘之
3	諸節 紀代子	7	松本 弘道	12	左藤 清	21	村松 俊明	34	親跡 冬樹
3	栗田 武寿郎	7	白神 逸夫	12	榎本 吉夫	21	山崎 俊夫	34	田村 顕洋
3	江崎 伴雄	7	南雲 和江	13	太田 繁信	21	鳥井 正志	34	小野 恵美子
3	腰塚 典明	7	久保 木克子	14	鈴木 道夫	22	寺島 一希	35	土方 康裕
3	前田 ミドリ	7	古宮 智津子	14	狩野 一子	22	津江 真行	35	福島 龍三郎
3	塩谷 佐紀子	7	橋本 明美	14	吉田 忠	22	津江 裕子	37	伊藤 栄二
3	井上 肇	7	林 誠一	14	小口 雄平	22	浅沼 芳弘	37	佐々 健太郎
4	斎藤 伸一	7	服部 七郎	14	上野 節子	23	伊藤 忠彦	39	後藤 誠史
4	郡司 昭仁	7	細田 隆	14	匿名 2	23	丸茂 俊二	39	山崎 美穂
4	谷司 直樹	8	松本 真理子	15	中島 一夫	24	岡田 拓	41	石川 真
4	泉 充子	8	田中 稔	15	小泉 啓治	24	大津 真嗣	外	桜井 健太郎
4	横山 幸子	8	溝田 隆之	16	大場 みどり	25	永田 武	外	匿名 1
4	斎藤 貞夫	8	岩科 健一	16	佐藤 善樹	25	浜崎 信行	外	後藤 雄介
4	谷上 俊三	8	畑中 誠	16	板垣 雅訓	26	大村 泰宏	外	岡田 悟
5	諸角 壮次	8	須藤 昌博	17	山下 暁	28	坂川 尚司	外	164名

2004 年度総会報告

OB 会幹事長 藤井謙一郎(33 期)

2004 年度 OB 総会は、日頃大変お世話になっている五八木荘の岡田さんへの感謝の気持ち、さらには苗名小屋の新しい屋根のお披露目を兼ねて、妙高高原町の原田荘で開催されました。

あいにくの雨、高原ともあって肌寒い中での開催でしたが、昼の総会、夜の酒席、翌日の小屋見学まで、とても濃い内容の総会となりました。

日時：2003 年 11 月 8 日(土)14:00～9 日(日)12:00

会場：妙高高原町・原田荘

出席：嘉納秀明(1)、吉野大次郎(2)、宮崎紘(2)、井上肇(3)、谷上俊三(4)、池原盛彦(8)、安藤貞利(11)、榎本吉夫(12)、鈴木道夫(14)、小口雄平(14)、上野節子(14)、中島一夫(15)、笹倉実(30)、伊藤明広(31)、藤井謙一郎(33)、小野恵美子(34)、親跡冬樹(34)、田村顕洋(34)、笠原正大(41)、塩野貴之(46、現役主将) 計 20 名

総会議事

1:会長挨拶(嘉納会長)

本日は遠方にもかかわらず総会にご出席をいただきましてありがとうございます。

本会は1999年より新体制に入り、諸機構を整備し、活動を活性化させて参りました。会報の発行、OB山行、名簿とEメールなど連絡網の整備、会費、寄付金などの資金確保と会計関係の確立などがなされてきました。また、山小屋の維持管理に関しては、山小屋委員会および有志の方々および非会員の利用者まで加わり非常に活発に行われ、年々整備が進んでいますことはまことにうれしい限りであります。年間の利用者も延べ500人を超えていることは小屋の存在意義を示しております。その小屋の老朽化対策として、昨年の総会で決議されました小屋屋根葺き替えが今年度におこなわれ、立派に完成しましたので、その披露もあり、ここに集合することになりました。

屋根工事の資金調達のための特別寄付に対しましては、163人もの方々の寄付があり、総額203万円の寄付金が集まりました。皆様のOB会またワンダーフォーゲル部に対する熱い思いの結晶であると思ひ、誠に有り難く深く感謝を申し上げる次第です。

また、この工事の見積り、発注、施工などにつきまして、山小屋現地委員であります14期OB鈴木道夫さん、山小屋委員会副委員長31期OB伊藤明広さんのお二人の方に大変なご尽力を頂きました。特に厚く御礼を申し上げます。立派な屋根ができ、前より上品な色合いになりましたことをここに皆様とともに祝いたいと思ひます。

新装になりました山小屋ですから今後十分に活用していただきたいと思ひます。しかし、この機会に、特に申し上げたいことはこの山小屋の耐用年限が終わりに近づいていることです。すでに30数年にわたり、この小屋は現役の活動の場をとして、またOBの憩いの場、情熱の対象、郷愁のシンボルとして十分に役割を果たしてまいりました。創建当時の会員皆さんの建設の志はすでに達成され報われていると申し上げてよいと思ひます。現在は人間に例えれば定年を迎えて第二の人生に出発しようとしている段階にあります。近い将来、ますます介護が必要になりましようし、万一の場合も覚悟しておかねばなりません。一方、介護する側は高齢化と少子化が問題になります。2007年には50周年を迎える本会のOBには定年生活者が増える一方、現役部員の数は各期5名以下という低迷を続けております。このような状況でありますから、今後の山小屋の運営につきましては無理をすることなく、その余生をいつくしみつつ大切に使用してゆくことにしたいと思ひます。

近づきました部創設50周年に対応し、OB会はこの年度から準備を開始致します。該当年における記念行事のほか、スカイラインの発行やこれまでの部活動、OB活動の集約なども考えており、いまから着手しなければならないことが多くあります。これらにつきOBの方々のご協力が欠かせません。50周年に向けて皆様の力の結集を望みつつ、私の挨拶を締めくくらせて頂きます。

2:定足数確認・新会員紹介

○定足数確認時点での出席会員18名、委任会員105名(総計36期)。以上の出席をもって総会は成立する。

○43期の梶ヶ谷圭祐氏(工学部・知能物理)、小林圭氏(工学部・知能物理)の2名が新会員として承認された。

3:OB会活動報告

①役員会(藤井幹事長)

年度内に計6回開催した。大学、新宿や長野など毎回異なる場所で開催された。一通り事業計画通りの活動を行うことができた。

②総務委員会(笠原総務委員長)

名簿、メーリングリストや会場手配など、今年も引き続き裏方としてサポートを続ける。

③編集委員会(田村編集委員長)

若干の遅れもあったが、計画どおりに3回の会報が発行された。

④山行委員会(小野山行委員長)

山行毎に担当幹事を依頼する形で計3回のOB山行を開催(箱根明神ヶ岳、榛名山、乾徳山)。参加メンバーや数も定着しつつあるので、いかに広げるかが課題。

⑤小屋委員会(伊藤小屋副委員長)

雪下ろしは計5回、延べ50人以上が参加。実施時期が非効率との反省点も。屋根修繕(Project-Y)については、会報で大々的に必要性を訴え募金を開始、現地委員の協力もあって完遂。R2003では土壌の整備などを行い、ボーイスカウト横須賀11団の協力もあった。

【質疑応答】

Q:小屋の入り口前にある砂利に関してはどう扱うのか?(吉野)

A:(池原小屋委員)小屋の土をとって砂利を敷く活動は、来年以降に行う。

4:一般会計決算報告(吉野会計幹事)

○収入は順調。2003年度は総会員の50%以上の納入率となり、非常に高い割合で会費が納入されている。

○会報の発行については各回郵送費・印刷費の問題から、予算を超過した。

○年間50万円程度の増資産となっており、前納会費の割合を差し引いても、今後三年程度は一般会計の安定が望める。

前期繰越	820,191	820,191
------	---------	---------

収入			
項目	予算	実績	差額
年会費	140,000	202,000	62,000
前納会費	255,000	255,000	0
一般寄付金	250,000	313,500	63,500
小屋寄付金	400,000	501,000	101,000
総会参加費	50,000	58,000	8,000
山行参加費	15,000	38,418	23,418
名簿郵送関連	15,000	9,500	-5,500
その他収入	10,000	85	-9,915
計	1,135,000	1,377,503	242,503

(前納会費繰延分)	1,260,000/6	=	210,000)
(前納会費当年度分)	270,000/6	=	45,000)
(前納会費計)			255,000)

会費等納入状況(会員486名)

	納入者数	金額		納入率
		名	円	
2003年度年会費	87		174,000	17.9%
2002年度以前年会費	8		28,000	1.6%
前納会費	39		390,000	
前納会費当年度収入	153		255,000	31.5%
一般寄付・小屋寄付	105		814,500	21.6%
小屋屋根葺き替え寄付	163		2,030,000	33.5%

支出			
項目	予算	実績	差額
会報作成・発行費(3回)	300,000	342,968	42,968
小屋会計振替	500,000	515,310	15,310
総会費用	80,000	71,334	-8,666
山行費用	24,000	24,142	142
幹事会・委員会会場費	28,000	29,410	1,410
名簿郵送費	15,000	1,670	-13,330
関西支部補助	6,000	5,400	-600
その他支出(予備費)	20,000	26,949	6,949
計	973,000	1,017,183	44,183

当期収支	162,000	360,320	198,320
------	---------	---------	---------

次期繰越	982,191	1,180,511	198,320
------	---------	-----------	---------

(前納会費繰延分)	765,000	765,000)
(前納会費・当年度分繰延)		345,000)
(前納会費繰延・計)		1,110,000)

帳簿残

次期繰越	1,180,511
前納会費繰延	1,110,000
小屋屋根寄付	2,030,000
前受金	606,000
計	4,926,511

現金・預金残

現金	0
振替口座	889,557
総合通帳	4,036,954
計	4,926,511

5:小屋委員会特別会計決算報告(伊藤小屋副委員長)

○予算内に収まったように見えるが、除雪活動で当初予算12万円に対し支出27万円以上と、予算を相当に超過。R2003の予算が次年度繰越扱いとなっているため、実質15万円程度の予算超過と見てよい。

○昨年度と比較すると交通費補助の現役・部外者の割合が非常に大きくなったこと、除雪活動の非効率さによる除雪回数増加といったことが除雪作業補助の予算超過につながっている。

前期繰越金(2002.10.1)	791,361 ①
------------------	------------------

2003年度収支計算書	
収入	
OB会計より振替	515,310
現役より振替(火災保険料)	1,000
預金口座利子	33
OB小屋会計収入合計	516,343 ②

支出	
除雪作業補助	275,169
R2003	(2004年度に繰越)
小屋整備修繕	208,786
小屋地代	10,000
雑経費(振込手数料・干代)	2,777
OB小屋会計支出合計	496,732 ③

当期収支(②-③)	19,611
-----------	---------------

次期繰越金(2003.9.30)(①+②-③)	810,972 ④
-------------------------	------------------

帳簿残(2003.9.30)	
次期繰越金	810,972
未払金	
計	810,972

現金・預金残高(2003.9.30)	
現金	43,784
普通口座	651,561
仮払金	115,627
計	810,972

【質疑応答】

Q: 小屋整備(砂利調達等)に割り当てられた20万円は、R2003扱いとなるのか(池原)

A: (伊藤)R2003に含まれ、次年度繰越となる。

Q: 現役の小屋支出の状況と、R2003における現役の出費は?(嘉納)

A: (現役主将塩野)ほとんど出費はなかった。ただし、燃料費は現役持ち。

Q: 昨年の小屋利用者は500名となっているが、実質収入は?(嘉納)

A: (塩野)5万円程度となっている。(参考: 小屋費は500円/日、部外者は600円/日)。

意見：(池原)本来ならば現役小屋委員会の収入状況はOB会とは無関係だが、OB会の出費状況を考えると一応現役の収支を報告してもらいたいところではある。

意見：(藤井)ボーイスカウトは半分ボーイスカウト行事、半分小屋整備の補助という立場で来ているわけで、小屋費を納めるべきではないか。

意見：(池原)ボーイスカウトは一泊分だけ宿泊費を納めるなど、何らかの取り決めが必要か。宿泊者の把握のためもあり、宿泊名簿をしっかりと作るべき。

6:監査報告(井上監査役)

○一般会計・小屋特別会計の報告書に基づき監査を行った結果、基本的に問題はない。

○ただし、小屋会計についてR2003分の出費は次年度繰越となっているが、形としてはこうした出費分は未払い計上として支出に含めておいた方が、繰越が明確となり望ましい。

以上、2003年度事業報告についてすべて承認された。

7:関西支部報告(宮崎関西支部幹事)

○4期斎藤氏が幹事・会計となり、自分は退任する。5期諸角氏も東京へ居を移したため退任となる。関西支部は23名が連絡のつく状態となっている。一人あたり600円の収入に加え、従来からの引継ぎ金によって運営されている。10月に比良山での山行などを行った。来年度以降は行事内容を拡大していく予定。関西支部の活動をMLに流すことを検討する。

8:会則などの改訂について(藤井幹事長)

①会則第56条の改訂について

(藤井)第56条、定足数の項について、①定足数から「監査役」の文字を削除②委員長が参加不可の場合は副委員長の出席を定足数に含める、の二点を改正案とする。ただし、監査役の文字を削除した場合も、定足数は5で現状と変化はない。

→多少の文面の修正を行った結果、満場一致で承認された。

====(参考)====

会則第6章 執行機関

第1節 役員会

(定足数)

第56条 役員会の定足数は、会長、幹事長、副幹事長、会計幹事、各委員長、監査役の過半数とする。ただし、緊急事態発生時はこの限りではない。

↓(改正案)

第56条 役員会の定足数は、会長、幹事長、副幹事長、会計幹事、各委員長の過半数とする。委員長が出席不可能な場合には副委員長の出席を以て定足数に算入される。ただし、緊急事態発生時は定足数を満たさなくとも役員会を開催できるものとする。

②山行下見に伴う交通実費の支払いについて

・山行については、従来担当者が事前の下見を行ってきたが、これは無償であった。今後、下見交通費を実費清算で支払うものとする。下見参加人数に関わらず、1回で最大10,000円の実費精算を行う。車での下見については、高速代実費および距離に応じて1キロ10円で計算する。(藤井)

→本件については、会則の改正を伴わず、予算の支出項目に組み込み、予算を承認してもらうことで承認を得るものとする。

9:役員・幹事状況および新体制

①役員の中で任期満了を迎えたのは、会計幹事吉野氏(2)、監査役井上氏(3)、小屋副委員長伊藤氏(31)、小屋委員田中氏(34)の4名。

→会計幹事については、吉野氏が再任された。

→監査役については、八島氏(7)が就任した。

→伊藤小屋副委員長は退任。ただし、小屋会計の後継が未定であるため、後任決定までは暫定的に伊藤氏が従来の小屋会計業務を継続することとなった。

→小屋委員34期田中氏については小屋委員会内で本人の意思確認を得られていなかったため、総会においては再任とし、後日、本人に確認する(その後本人より退任意思表示が届いたため、退任とした)。

②関西支部幹事については、宮崎関西支部幹事、諸角関西支部幹事が退任。後任に斎藤貞夫氏(4)が就任。

③2004年度の体制(★:新任)

役職	氏名(期)	任期	就任	役職	氏名(期)	任期	就任
会長	嘉納秀明 (1)	3年	02.10.1	OB 小屋委員長	後藤誠史(39)	3年	02.10.1
関西支部長	渡辺亨英(3)	3年	02.10.1	副委員長	石川真(41)	3年	02.10.1
幹事長	藤井謙一郎(33)	3年	02.10.1	小屋委員	郡司直樹(4)	3年	02.10.1
副幹事長	田村顯洋(34)	3年	02.10.1	小屋委員	諸角壮次(5)	3年	02.10.1
会計幹事	吉野大次郎(2)	3年	03.10.1★	小屋委員	菅谷光雄(6)	3年	02.10.1
顧問	菅谷光雄(6)	3年	02.10.1	小屋委員	池原盛彦(8)	3年	02.10.1
顧問	池原盛彦(8)	3年	02.10.1	小屋委員	小口雄平(14)	3年	02.10.1
総務委員長	笠原正大(41)	3年	02.10.1	小屋委員	鈴木道夫(14)	3年	02.10.1
総務委員	禪知明(29)	3年	02.10.1	小屋委員	安本健一(30)	3年	02.10.1
総務委員	影井康弘(34)	3年	02.10.1	小屋委員	笹倉実(30)	3年	02.10.1
総務委員	渡邊隆史(36)	3年	02.10.1	小屋委員	親跡冬樹(34)	3年	02.10.1
				小屋委員	村山浩樹(34)	3年	02.10.1
				編集委員長	田村顯洋(34)	3年	02.10.1
				副委員長	松本弘道(7)	3年	02.10.1
				副委員長	山崎美穂(39)	3年	02.10.1
				山行委員長	小野恵美子(34)	3年	02.10.1
				監査役	八島明(7)	3年	03.10.1★
				関西支部幹事	斉藤貞夫(4)	なし	03.10.1★

10:2004年度事業計画(各委員会代表)

	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
役員会		役員会(国大) 10年度幹事会	役員会開催(5回～6回)									
総務		名簿 配布 配信	★名簿整理～ ★ML登録者登録～ ★総会準備～									
編集		会報 25号 発行				会報 26号 発行			会報 27号 発行			
山行			第9回 山行 (三ツ峠)				第10回 山行			第11回 山行		
小屋	リフレック 2003	★小屋DIY ★トイレ問題検討	第1回 除雪	第2回 除雪	第3回 除雪	★小屋DIYなど～ ★トイレ問題検討					リフレック 2004	

①役員会(藤井)

2ヶ月に1度の開催を目安に、引き続き業務を遂行していく。

②総務委員会(笠原)

まずは四国在住の名簿係による名簿発送を皮切りに、OB会活動をバックアップしていく。

③編集委員会(田村)

本年度に三回の発行を予定。小屋や期別だよりを交えていくのは従来通りだが、若干マンネリ気味の感もあるので新しい原稿を交えつつ読まれる紙面を組んでいく。

④山行委員会(小野)

次回山行(三ツ峠)は田中氏(14)を幹事とし、1月に実施する。

⑤小屋委員会(伊藤)

今年度は効率化をめざし、1月中旬、2月中旬～下旬、3月下旬を予定。有志により各回10名以上、広く分担をめざす。事務的な部署をしっかりと整備した上で行う必要がある。

屋根修繕に際して10年間無償保証を取りつけたことで、小屋の10年維持計画を立てメンテを継続する。Project-Tとして、便所上部が破損したトイレの修繕計画を立てる。

年越しや春スキーなどの親睦活動を行う

最優先課題として、土地掘り下げなど、小屋の保全・メンテナンス活動を軽減するようなDIYを行う。

やりたいこととできることのギャップが生じる予算設定となっているのが現状である。

⑥50周年事業(藤井)

2007年5月1日がYWVの50周年。これに向けて、記念山行や現役部員のスカイライン発行支援などを計画していく。50周年に向けたプロジェクトチームを立ち上げる。

【質疑応答】

Q: MLの整理状況は?(嘉納)

A: (藤井)参加者の整理は2003年度初め以来、行っていない。その後、小屋ML、小屋役員MLが出来た。本来は一般

MLと役員MLの2本を見ていたが、計4本になったことで、相互の加入状況が混乱している。小屋MLとの整理・統合についてはメンバーの照合・問い合わせの上で今年度中に行う予定。

Q：メール配信による会報の配信状況は？(嘉納)

A：(田村)当面、メールのみによる会報の配信、郵送費の節約は行わない。これは、メールでの配信を希望しない会員の割合が高いこともあり、会費を一律に徴収している以上は当面行わない予定。

意見：(井上)会費を払わない会員にはメールでの送信にするなど、対応策を考える必要がある。

Q：屋根の雪下ろしをしなくてすむようになったとのことだが、年3回の雪下ろしは必要なのか？(笠原)

A：(池原)実際には雪で小屋と壁が繋がる状況となってしまう。小屋の屋根から斜め柱を張り巡らさない限りは、3回の雪下ろしは行う必要がある。

A：(笹倉)屋根の雪が滑りやすいという新しい状況でもあり、実際行ってみなければどのような方法となるか分からない。今後ノウハウを積んでいく必要がある。

Q：当初、OB会は現役の補助として雪下ろしを行う予定であったはずだが、最近OB会主導の色が濃くなっているのでは？(藤井)

A：(笹倉)昨年度も第一回と第四回は現役主導で雪下ろしを行っており、今後もこういった状態を維持すれば問題ないだろう。

Q：小屋の雪に手をつけないとどうなるのか？(嘉納)

A：(池原)構造的に横からの引きに建物が弱く、雪解けの際に小屋が崩壊する可能性が高い。

Q：予算的な面でシビアに考える必要もあり、小屋を10年間維持すると試算では年間20数万円を費やせる。これに篤志家の寄付があることを考えると年間30万円となるが、この金額で小屋を維持することについてどう考えるのか意見を聞いておきたい(嘉納)

A：(池原)雪下ろしにどこまで援助するかという問題もあるが、今回は屋根修繕に伴って道路の整備に費用がかかっている。だが、一旦この道路を整備し終われば比較的予算に余裕も生まれる。今後、毎年数年ずつ斜め柱を増設すること、一度は壊れるであろう外部の大柱の修繕費用を考えると、維持するだけならばそれほど金銭的な問題はない。だが、最終的な取り壊しの費用も考えねばならない。

意見：(池原)OB会と切り離れた基金(実際のユーザーを対象にしたものなど)についても考えておきたい。

意見：(嘉納)山小屋委員会の緊縮予算の中でどこまでできるか、という点をしっかりと考えてもらいたい。

意見：(嘉納)屋根葺替基金の残高については、用途が変更される以上、決議を取ってから用いる必要がある。この点を踏まえても山小屋に回せる金額はこの先10年間は約30万円/年となる*。

*150万(毎年の寄付×10年)+48万(屋根葺替基金の残金)+80万(2003年度からの繰越)=280万円

→280万円÷10年=28万円

11:2004年度一般会計予算案(吉野会計幹事)

○収入50万円、支出40万円程度を維持する。

		(03年度実績)	(04年度予算)	
前期繰越		820,191	1,180,511	
収入				
項目	03年度実績	04年度予算	差額	
年会費	202,000	120,000	-82,000	
前納会費	255,000	280,000	25,000	
一般寄付金	313,500	120,000	-193,500	
小屋寄付金	501,000	150,000	-351,000	
総会参加費	58,000	200,000	142,000	
山行参加費	38,418	20,000	-18,418	
名簿郵送関連	9,500	10,000	500	
その他収入	85	0	-85	
計	1,377,503	900,000	-477,503	
(前納会費繰延分)	1,530,000/6	=	255,000	
(前納会費当年度)	150,000/6	=	25,000	
(前納会費計)			280,000	

		03年度実績	04年度予算	差額
支出				
項目	03年度実績	04年度予算	差額	
会報作成・発行費(3回)	342,968	350,000	7,032	
小屋会計振替	515,310	150,000	-365,310	
総会費用	71,334	180,000	108,666	
山行費用	24,142	30,000	5,858	
幹事会・委員会会場費	29,410	30,000	590	
名簿郵送費	1,670	10,000	8,330	
関西支部補助	5,400	6,000	600	
その他支出(予備費)	26,949	20,000	-6,949	
計	1,017,183	776,000	-241,183	
当期収支	360,320	124,000	-236,320	

次期繰越	1,180,511	1,304,511	124,000
------	-----------	-----------	---------

(前納会費繰延分 1,110,000 855,000)
 (前納会費・当年度分繰延 145,000)
 (前納会費繰延・計 1,000,000)

小屋屋根葺替特別寄付収支予算		
	金額	摘要
収入:特別寄付	2,030,000	
支出:工事請負	1,400,000	
支出:板道補修	149,100	
差引き残	480,900	

次期繰越	
次期繰越	1,304,511
前納会費繰延	1,000,000
計	2,304,511

【質疑応答】

Q：前納会費の取り扱いの問題はないのか？(池原)

A：(吉野)前納会費を6等分し、各年度に割り振って計算してあるので問題ない。

12:小屋委員会特別会計予算案(伊藤小屋副委員長)

○小屋の利用・支持者を増やすために小屋シンボやホームページ開設の費用も見込んである。

○予算の都合上、火災保険の加入は見合わせる。

前期繰越金(2003. 10. 1) 810,972 ①

収入		支出	
OB会計より振替	150,000	除雪作業補助 (@30,000円×3回:1~3月各1回) R2003	90,000 72,295
		小屋整備修繕(DIY・他)	190,000
		小屋広報 (小屋シンボ・HP開設、他)	10,000
		小屋地代	10,000
OB小屋会計収入合計	150,000 ②	OB小屋会計支出合計	372,295 ③

当期収支(②-③) -222,295

次期繰越金(2004. 9. 30) (①+②-③) 588,677 ④

【質疑応答】

Q：R2004への支出は含まれないのか？(池原)

A：(伊藤)「小屋整備修繕」項目にR2004の予算は含めてある。

Q：小屋会計15万円は前年度よりも減となるが、その根拠は？(笹倉)

A：(吉野)今年度の「小屋寄付」実績から判断した。もし来年度の寄付がゼロならば予算もゼロとなる。

意見：(井上)上の世代になるほど、将来的な小屋の展望には興味を示しにくいこともあり、大幅な寄付増が期待しにくい。

Q：トイレ修繕については、急に決定するのではなく、今後も検討を続けるということでしょうか？(吉野)

A：(鈴木)トイレについては、まだメールで情報をやりとりされる段階でしかなく、小屋委員としての意見が集約できていない状態である。

意見：(池原)OB会として、小屋委員会に長期ビジョンを示すよう指示を出すことも必要である。

13:屋根葺替特別基金の残金に関する特別決議

寄付金と工事で費やされた金銭の差額である¥480,900円を、小屋会計への繰越金として認めるか否かについて決議を行った。その結果、一般会計、小屋委員会特別会計、吹き替え基金残高の取り扱いについて、全て満場一致で可決された。以上をもって、2004年度OB総会は閉会した。

その後:

茸づくしの夕食には岡田さんにお越しいただき、色々な興味深いお話を伺いました。夕食後は部屋を変え、シニアOB会活動報告、小屋委員会報告、現役活動報告。その後は当然のことながら深夜までの酒席。翌日は小屋に向かい、新しい屋根を確認しました。また、小屋の構造に関して小屋委員会と会長が熱心に話す姿も見受けられました。



2004年度YWVOB会定期総会 (於) 妙高高原 岡田荘 2003年11月8日(土)

■ 第15回「シニアOB会の集い」報告

報告：松本 弘道(7期)

第15回シニアOB(1~8期)の集いが11月15日(土)~16日(日)に「いこいの村あしがら」で開催された。

今回の参加者は昨年より若干少なく、1期(3名)、2期(9名)、3期(9名)、4期(8名)、5期(8名)、6期(7名)、7期(8名)、8期(3名)の計55名であった。

1日目は小雨交じりの曇天だったが、本格的に雨具を使わずにすんだことは幸いであった。

例年同様、各自の好みと体力にあったコースを選んでワンダリングを楽しんだ後、宿に集合した。

1A 鍋割山、塔ノ岳；リーダー腰塚(3期)計13名

二股まで車で入る。そこからは急なぼりを後沢乗越から鍋割山へ。霧雨のため山頂小屋は満員なので、あきらめて鹿の糞だらけの頂上で昼食となった。小丸を超え、金冷しから塔ノ岳をピストン。大倉尾根を経て小草平より二股へ戻った。塔ノ岳は学生時代以来の人もいて、山頂やバカ尾根の変わりように驚いていた。(塔ノ岳山頂は濃霧と強風のため、記念撮影のみですぐに下山)山頂付近の登山道の直ぐ脇で子連れ鹿の家族に遭遇した。鹿の数がかなり増えていることを実感した。

1B 大山；リーダー岡田(6期)計11名

ヤビツ峠より登山開始。大山山頂にて昼食。晴れた日には伊豆の島々や、富士山、箱根の山々も眺望できるが、残念ながら展望は全くきかない。昼食は震えながら食べた。そして人が比較的に少ない両沢の頭、一ノ沢峠下分岐より釣堀事務所へ下った。途中で見つけた赤い実をつけた落葉樹「マユミ」が美しかった。「マユミ」の名は、昔この木で弓を作ったことからきている。若芽は山菜として食べられるが、実は毒だ。

下山後に飲んだ青山荘のコーヒーはうまかった。

1C 弘法山；リーダー谷上(4期)計10名

小田急奈野駅より直ちに登山開始。何故か、メンバーの半数は4期。

浅間山を経て、権現山に登り、山頂でゆっくりと昼食。弘法山には大師堂や鐘楼、乳の井戸などがあり、桜の名所だが、今は紅葉した葉も落ちていた。花の時期にきたらさぞ見事だろうと話しながら吾妻山を越えて鶴巻温泉に下山した。本コースは霧雨や強風に悩まされることもなく、リーダーの手柄の表れた穏やかな尾根歩きを楽しんだ。

宿に集合した後は、まずは温泉で汗を流し、くつろぐ。

18時より、パーティ開始。今年も昨年同様、立食パーティで、テーブルには豪華な料理がたくさん並べられている。

嘉納会長(1期)の挨拶と、藤岡氏(1期)の乾杯の後、まずはシニアOB会10回参加者の表彰。今年の表彰者は2期宮本、3期江崎、塩谷、4期原、5期三宅、諸角(絢子)、6期近藤、の各氏計7名。次にプロジェクターを使ってシニアOB山行の報告をおこなった。1月「御岳山」、2月「筑波山」、3月「大楠山」、4月「石老山」、5月「榛名山」、6月「鼻曲山」、7月「丸岳」(箱根)、8月「富士山お中道」、9月「武甲山」、10月「西沢溪谷」、11月「丹沢」、12月「仏果山」(予定)である。

50回参加の腰塚氏(3期)と、30回参加14名の表彰もあった。

吉野氏(2期)によるOB総会ならびに山小屋の屋根葺き替え報告、池原氏(8期)による小屋の現状報告後、会食、懇談となった。

月例山行のスライドもあり、楽しい会であった。

パーティ終了後は、50人もが一部屋にあつまり、各期毎の歌を歌ったり、談笑したりと熱気漫々の一夜を過ごした。解散後に風呂場で寝込み、掃除のおじさんに起こされたモサもいた由。

2日目

前日の疲れも吹き飛ばし、全員7時半より朝食。2日目のPWも盛りだくさん。前日とは大違いの良い天気となり、それぞれの目的地に出発した。

2A 大室山、加入道山；リーダー吉野(2期)計13名

西丹沢の用木沢の出会いに車をつけ、白石峠への急な登りを息を切らせて登りきる。12 時前に加入道山頂着。行き交う人もなく、静かな晩秋の山行を楽しむ。いったん下った後には、再び大室山までのきつい登りと、犬超路の急な下りがあったが、シニア OB としては内容の濃い山行であった。落葉したブナの林の中から、富士山や、丹沢の山々を眺めることもできた。

2B シダンゴ山；リーダー谷上(4期)計 14 名

寄より農道をいっきに 100m 以上登り、イノシシ避けの防護柵を超えると、整備された山道となった。馬酔木の群落を通り、シタンゴ山の頂上に着いた。江ノ島、真鶴半島を見ながら、ゆっくりと昼食を食べ、なだらかな高地山を越えて、落葉を踏みしめ、晩秋の里山を満喫し、寄へ下山した。

2C 散策；リーダー江崎(3期)計 8 名

車でドライブしつつ、前田(3期)氏知り合いのみかん園でみかん狩りをした。

横穴遺跡や大井町中央公園の展望台を経て静かで落ち着いた湿生園に行きそこで昼食を取った。その後は近くの米倉寺で御住職より、昔話やいわれ等一時間弱のお話を聞き、好天の下のでかで教養あふれた一日を送った。

2D ゴルフ；リーダー小林(7期)計 7 名

朝食後、棒振り仲間は車で太平洋クラブ御殿場ウェストコースへ。

前夜の荒天が嘘のような晴天で、一日中暖かい天気恵まれ、のびのびとプレーを楽しんだ。

富士山の麓の大自然と紅葉を十分に楽しんだ一日、なおスコアは恒例により秘密ということになっている。

恒例のシニア OB の集いは、今年も楽しい思い出を刻みました。

久しぶりに参加して、はじめはなかなか顔を見分けられなかった人も、すぐに学生時代に戻ったような仲間とのやり取りとなり、時の経過をスリッパしたひとときとなりました。各幹事の皆様、ご苦労様でした。

皆さん、また来年も元気で集合しましょう！



弘法山公園入り口にて



シダンゴ山 山頂にて



■ 会員近況報告（返信ハガキ通信欄より）

報告：名簿係 渡邊 隆史(36期)

- 桑原忠雄(1期):どこも体に異常なく元気にはしておりますが、若い頃痛めたヒザの影響で山には全然行っておりません。町のグループ同好の人達とモノクロの写真を楽しんでおります。
- 平林茂(3期):毎日なんとか元気にすごしております。1~2ヶ月に1回位の妻の「旅」(散歩程度で温泉を楽しむことが中心)を楽しんでいます。
- 井上肇(3期):今年は1995年の衝撃的出来事の地に行く機会がありました。一つは神戸市長田区、阪神大震災で大きな被害を受けた街は30階建のビルなどで再開発中でした。もう一つは高速増殖炉もんじゅ、温度センサが折れてナトリウム洩れを起こした現場を見てきました。こちらはまだ止まったままでした。話は変わりますが、敦賀の気比の松原はすばらしいところですね。1万本以上の松が並んでいて、三大松原の一つというだけありますね。
- 高須梓(5期):今年の夏は湯ノ丸池ノ平湿原、八千穂高原、入笠山、蔵王等、カメラを手にヒーヒーいいながら、お散歩していました。
- 谷合成人(5期):今年の4月に統合し会社名が変わりましたが仕事の中身はほとんど変わりなしです。週末は相変わらず地域の人達とテニスで「バトル」を楽しんでいます。
- 菅谷光雄(6期):総会に出席したかったのですが、7月から崩した体調復活のメドが9/末になってもたちません。とりあえず「欠席」とし何とか「どた参加」を狙います。屋根ふきかえとDo-itの努力で小屋復活となりますよう多くの皆さんの活用を切望しております。又、総会出席者数心配しております。にぎやかにやりたいじゃないっすか。余計な心配をベッドの上でしております。
- 坪亜起子(7期):まだ勤めています。ここ1,2年大変忙しくなり、時間的に余裕のない日々を過ごしています。会の御成功をお祈りしています。
- 池原盛彦(8期):毎年リフレッシュで小屋を楽しんでいるのか、労働で汗を流しているのかわからない現状から早く脱却したいものです。あと2年程すれば楽しみがほとんどのリフレッシュになるでしょうネ。一人で来るもよし家族友人を連れてくるもよし小屋は幼稚園児でも充分楽しめます。もちろんジジババ(シニアOBも含む)も楽しめます。
- 上島雄助(8期):本年の盆休みは雲の平周辺を歩いて来ました。近い将来苗名小屋を訪れたいと思っています。
- 鈴木弥栄男(9期):ポルトガル在住5年目に入りました。今夏欧州は熱波襲来。その直前に、漸く本場アルプスを物見遊山してきました。ユンゲン・フラウが眼前に迫る山小屋風ホテルから眺望を楽しみ、さらに登山列車で行き、アイガー北壁の麓の雪渓まで少し歩きました。
- 太田繁信(13期):ようやく、生活の中にパソコンが入ってきて山の情報もインターネットで得ることが増えてきました。今年の夏も、インターネットで剣岳北方稜線の毛勝山に尾根ルートができていることを知り、登ってきました。登ることは多分無い山だと思っていただけに、感激しました。
- 鈴木道夫(14期):年初にスタートしたプロジェクトYが、いよいよ着工までこぎつけました。工事が楽しみですし、11月の総会も楽しみです。あとはトイレをどのように修理していくかが課題です。最近下腹がダブついてきて、又もベルトの穴の位置が動いてしまった。自戒!
- 鶴岡一(14期):長男は大学受験にて家にいますが、長女、次男、女房はボーイスカウト活動にてキャンプ、ハイキングと出かけています。今、一番先に山でバテテしまうのは、私ではないでしょうか?今は、ロープウェイもしくは車で登れる山を目ざしています。
- 上野節子(14期):9月6日の乾徳山に参加させていただき、とてもよかったです。老親のことも一応おちついてきたので、これからは時間が許す限り、OB山行等に参加させていただくつもりです。
- 小泉啓治(15期):卒業以来、もうすぐ30年。時折OB山行に参加させていただいて、皆様との絆を細々と維持しております。家庭の方でも仕事の方でももう少しゆとりが出来たら・・・と思う昨今です。
- 池谷文明(16期):8/16~8/24までPHUKET島とPHI-PHI島へダイビングに行ってきました。4年連続です。

- 浜田淳(18期):今、信州松本にて大学教師をやっています。このあいだ、燕から常念まで縦走しましたが、体力の低下を痛感しました。だけど、常念小屋からみた星々はとても良かったです。
- 石井啓介(19期):今年の夏、一時帰国の折、妻、娘と共に上高地を散策しました。梓川ほとりから穂高を仰ぎ見て、27年前に彼の地で亡くなった友としばし語り合いました。享年二十才の春でした。
- 石井忍(19期):アメリカシカゴにて毎日YWV諸氏の小屋への熱い思いをコンピューター上で拝見しています。ネットという文明の力で年令、場所をこえたつながりができたことに感激しています。
- 笛木久栄(19期):今年はお出かけの多い年となりました。9月末より12月までニュージーランドへ行っております。7月、尾瀬にて初めてお話ボランティアの活動をしてきました。新たに学ぶことも多く、また来年もと思っています。
- 鳥井正志(21期):苗名小屋の屋根および整備の成功を応援・お祈りいたします。
- 禪知明(29期):母校も法人化を迎え、事務的に慌ただしい日々です。独立行政法人化は教育機関として不可能ということで、国は「国立大学法人」という名称にて法人化することを決めました。平成16年4月から母校の名称は「国立大学法人 横浜国立大学」となり、名称に「国立」が2度出てくるにもかかわらず国立ではないという奇妙な名称となります(-_-) 教職員も国家公務員ではなくなり法人ということでおそらく団体職員扱いになる見込みです。体制が変わってもより良い教育・研究を行っていきけるようにしたいものです。
- 藤森朝詩(30期):今年ハピリ(?)で、蝶ヶ岳に行ってきました。とても良かったです。
- 藤森潤子(32期):この夏は5才と0才の子どもを連れて、「八島ヶ原～霧ヶ峰～車山コース」と白馬の「八方尾根」を歩いてきました。ハイキングコースにも素敵な場所があると、新しい発見でした。
- 土方康裕(35期):群馬県に引っ越ししました。山が近くなって便利です。
- 富澤理子(35期):4月から1年間の予定で横浜市役所から企業派遣研修の機会を与えられ、アサヒビール株式会社で会社員生活を満喫していたのですが、途中で妊婦になっていることが判明(気付いた時は既に妊娠5か月だった!)。研修を8月で切り上げて、9月から産休に入りました。今年は遅い夏休みをとり、志賀高原でトレッキングを楽しみました。妊娠後期ともなるとおなかがせり出して持っている雨具のズボンの前がしまらないのが困りものですが、雨の中でもがんがんで歩いてきました。
- 渡邊愛(36期):知り合いのまったくくない愛媛にお嫁に来てから1年半、のんびりと田舎生活を満喫しております。透き通った川には小魚が群れ、ときおり亀やなまずも顔を出します。近所のおばさんから家庭菜園のお野菜やみかんをたくさん分けてもらい、どうやって消費しようかというぜいたくな悩みをかかえる今日この頃。
- 渡邊隆史(36期):今年登山を怠け気味でしたが秋に伯耆大山に登って来ました。頂上に着いてからガスが晴れる珍しいパターンで、下り道は盛りの紅葉とそびえる三鈷峰、遙かに見下ろす弓ヶ浜など楽しむことができました。父にも良い還暦祝いだっただけかな。
- 佐々健太郎(37期):地の利をいかして南会津でも歩いてみたいと思っています。なかなか行けないのですが・・・。



【2003年度寄付について】

2003年度も多くのみなさまから寄付をいただきました。大変ありがとうございました。

2003年度寄付明細

期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名
1	佐藤 文雄	4	郡司 直樹	8	早坂 富美子	19	林 厚子	29	福島 昌彦
1	嘉納 秀明	4	横山 幸子	8	田中 稔	19	苗木 久栄	29	関 隆広
1	望月 元雄	4	谷 昭仁	8	溝田 隆之	21	横溝 真司	30	安本 健一
1	藤岡 暉生	4	谷上 俊三	9	木下 三男	21	坂元 朋子	30	安本 健一
2	宮崎 紘	5	向井 久弥	10	山本 陽一	21	鳥井 正志	30	土生 達也
2	北見 美智子	5	高須 梓	11	安藤 貞利	21	溝畑 晃道	30	下出 直孝
2	吉野 大次郎	5	亀井 良英	11	丹羽 守裕	21	藤倉 大介	30	竹澤 智
2	塚原 伸一郎	5	亀井 昭子	11	桜井 謙一	22	寺島 一希	33	笹倉 実
2	米屋 勝利	6	原 隆	12	山川 隆	22	寺島 美佐緒	33	藤井 謙一郎
2	多田 裕子	6	蜜島 英二	12	榎本 吉夫	22	立浪 和也	33	赤羽 直雄(父)
2	西村 郁代	6	菅谷 光雄	14	小口 雄平	22	鴨志田 岳志	33	福島 弘之
2	岩上 克尚	7	松本 弘道	14	鶴飼 紀夫	22	山崎 晃	34	小野 恵美子
3	井田 貞司	7	菅谷 美智子	14	鈴木 道夫	23	丸茂 俊二	34	田村 顕洋
3	吉村 元孝	7	細田 隆	14	狩野 一子	23	伊藤 忠彦	34	親跡 冬樹
3	渡辺 享英	8	松本 真理子	14	吉田 忠	24	鴨志田 周子	35	吉田 啓史
3	森井 栄子	8	上島 雄助	15	小泉 啓治	24	大津 真嗣	35	曾根 康博
3	江崎 肇	8	岩科 健一	15	牛窪 肖	24	八木 肇	37	堀越 社平
3	井上 肇	8	高橋 弓子	16	佐藤 善樹	26	辰馬 克也	37	佐々 健太郎
3	平林 茂	8	佐木 誠夫	17	北沢 由実子	28	井口 次郎	37	伊藤 栄二
4	高田 良子	8	平沼 茂	18	堀内 章子	28	中西 信之	39	後藤 誠史
4	斎藤 貞夫	8	早坂 宗	18	堀川 朋久	29	禰 知明	外	松尾 恵子
									匿名

105名

※小屋屋根葺替え特別寄付明細については、記事「苗名小屋屋根葺替プロジェクト 募金御礼及び報告」参照

【訃報】

岡本幸雄様(5期)が11月15日に亡くなりました。

飯村治雄様(8期)が12月1日に亡くなりました。

謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

【年末・年始の小屋について】

例年OBやその友人、現役が年末年始を苗名小屋で過ごしています。ご興味のある方は、是非ともご体験ください。小屋入りの予定など、お気軽に小屋委員までお問い合わせください。



今年元旦の妙高原スキー場



アンデスにて

YWVOB 会報第 25 号

発 行: 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

発 行 日: 2003 年 12 月 13 日

発行責任者: 嘉納 秀明(1)

編集責任者: 編集委員長 田村 顕洋(34)

編 集 担 当: 編集副委員長 松本 弘道(7)、同 山崎 美穂(39)

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。